

多機能型子育て施設と公立の役割

～ 人口減少時代の子育て支援 ～



鳥取県日吉津村
複合型子育て拠点施設
ミライトひえづ総括室
室長 鬼束 雄輔

＜日吉津村の概要＞

- 鳥取県唯一の村（村制施行135年を迎える）…明治22年村制施行
- 鳥取県の西部に位置。東に中国地方最高峰の大山、西には一級河川の日野川、北に日本海を臨み、豊かな自然環境に恵まれる。
- 米子空港から車で30分、JR伯耆大山駅、米子自動車道（米子IC）からも近く、村内を国道431号線が通る交通の要衝。
- 村全体が都市計画区域であり、工業（製紙工場）、商業（大型SC）、農業（米、白ネギ、ブロッコリー、大豆）など活力があり、居住環境にも恵まれる。

◆面積：4.20km²（全国の村で4番目に小さい）

◆人口：3,611人（R7.3月末現在）

◆世帯数：1,300世帯

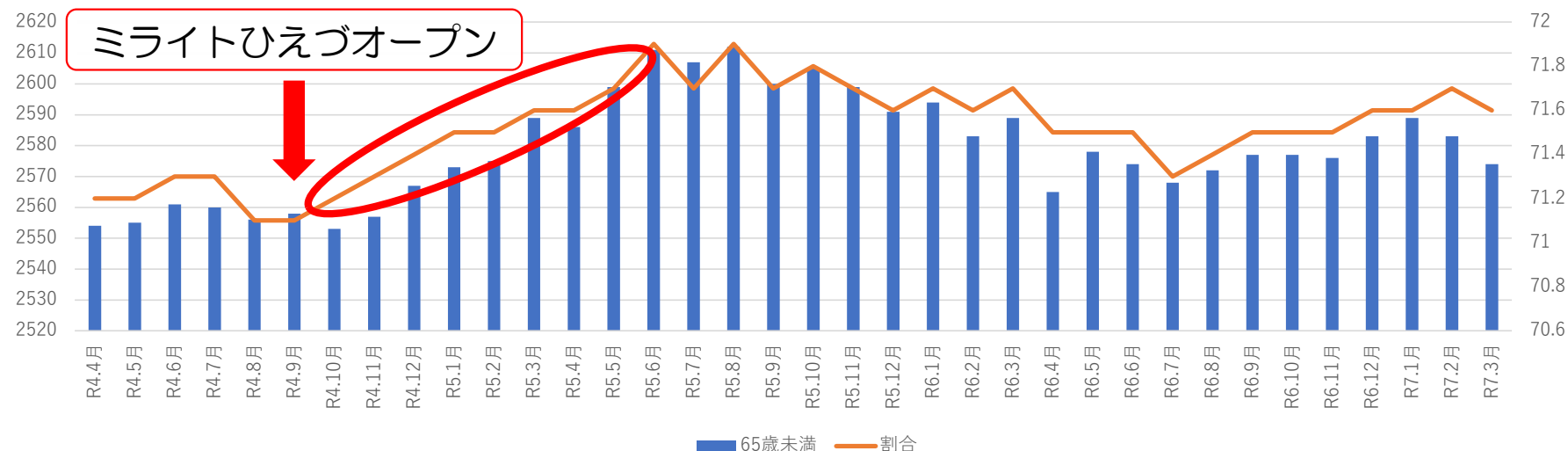
◆年間出生数：30～40名程度

◆合計特殊出生率：1.14（令和5年度）

◆公立認定こども園1、私立小規模保育所2、小学校1、中学校（米子市組合立）1



＜65歳未満人口の推移（R4.4月以降）＞



＜日吉津小学校 児童数（4月1日時点）＞

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
児童数	210人	211人	237人	228人	236人

＜ひえづこども園 園児数（4月1日時点）＞

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
園児数	121人	128人	140人	138人	141人

設置の経緯

保育所、児童館の老朽化による建て替え時期を迎える
近隣に支援センターと民俗資料館が点在

保育所等建て替え検討委員会

提言

建て替え後の施設は1か所に集約し、複合型の子育て支援施設
として整備する

複合型子育て支援施設をどのように活用するか

職員

利用者アンケート



令和3年6月着工：令和4年9月保育所完成・一部供用開始

複合型子育て拠点施設「ミライトひえづ」

建設費： 約1,250,000千円 面積:1935.98㎡

2023年 9月 完成

増築建設費:約 250,000千円 面積:270.08㎡

2024年12月 完成

利用者が求める子育ての拠点とは？

- 子育てについて知りたい、学びたい
- 子育て仲間や友達が欲しい
- 子どもの育ちに沿った支援サービスや制度が利用したい
- 子どもの育っていく様子が知りたい
- 子どもの発達や進路について相談したい



多機能型の子育て施設（子育て支援センター、こども園、児童館、ファミリー・サポート・センター、民俗資料館）は、子どもの育ちに沿った切れ目のない支援の充実が図られ、子育て世代が安心して子育てができる拠点となる。



子育てのニーズに対応する・子育てが見える場所

<ミライトひえづの特色>

学びたい・仲間がほしい

①【子育ての不安の解消】

○こども園内の子育て支援センター

親デビュー、子育ての利用者が気軽に行ける場所
友達と一緒に支援センターのイベントに参加できる
いつも同じスタッフが対応し寄り添い続ける
利用中のつぶやきに職員が対応できる

○支援センターが行う一時預かり事業

通い慣れた子育て支援センター職員が対応
就園前の慣らし保育としても利用

○こども園保育時間の園庭開放

こども園の保育時間に開放することで子どもの育ちの見通しが見える

育ちの見通し

②【切れ目のない支援】

○児童館の併設： **小1の壁の解消**

こども園（保育）から、敷地内の児童館（学童保育）への円滑なつなぎ
3月31日までは「こども園」、4月1日からは「児童館」で切れ目のない支援

○こども園と児童館の閉館時間の統一： **保護者の時間の負担軽減**

幼児と小学校児童のきょうだいを同時に迎えに来ることで夕方の時間短縮
迎え時間が保護者交流の場

○保小連携の充実： **幼児教育と学校教育の充実**

円滑な接続 園と小学校の対等性の発揮
スタートカリキュラム・架け橋カリキュラム・保小合同研修・交流・就学支援

③【ミライト総括室の設置】

知りたい・相談したい

○子育て支援のコンシェルジュ：各機能・関係機関を「つなぐ」コーディネート：機能と人
事務の一元化による保育現場の負担軽減

○地域資源（人材、施設）の有効活用：
職員の協働、施設のシェアなどの調整

○福祉と教育の指導助言：
保育・教育の質の向上
担当課を超えた指導助言

公立子育て施設の役割

①現状に合わせた安定した支援

独自保育士配置 3歳以上児クラスの独自定数(少人数)

待機児童を出さない(3歳以上児は希望全入 障がい、家庭支援への対応)

入園児数や経営状況に左右されない

②地域の中核として他機関と連携

小規模園の誘致・地域団体・コミュニテースクール・社会教育

③施策の実行力

園舎増築

④施設の多機能利用

将来の保育施設の空きスペースをコミュニティーの空間利用に(地域開放・高齢者利用など)

まとめ

- ①多機能と公立モデルが持続可能な支援体制を構築
- ②子育てサービスと教育体制(幼児教育・学校教育)の両輪
- ③子育て支援の質は地域の選ばれる理由
- ④公立施設は地域連携のハブ